

順位	配信日	大学名	所在地	タイトル
1	7/1	藍野大学	大阪	理事長直轄の組織として内部監査室を設置。多彩な有識者を迎え、組織の機能強化に取り組む。
2	6/27	駒澤大学	東京	コロナ禍の学生に食料品や生理用品を無料で配布する取り組みを継続的に実施。7月開催の食料品支援プロジェクト(第4弾)に向け、「Amazonほしい物リスト」を通じた寄付を募集。
3	7/7	昭和大学	東京	ふらつきやめまいなど、熱中症後の発症性神経傷害の病態について医学部研究グループが報告。
4	7/6	関西外国語大学	大阪	最新鋭のVR機器などを備えたメタバース演習室「Hello,World.」が完成。文系大学では全国初。
5	7/8	神奈川大学	神奈川	学校法人神奈川大学の理事長に、同大常務理事で湘南信用金庫相談役の石渡卓氏が就任。
6	7/4	芝浦工業大学	東京	地方入学者に最大200万円を支給する給付型奨学金制度「朝日に輝く奨学金」を新設。
7	6/21	京都産業大学	京都	長期化する侵攻で苦しむウクライナのため、ロシア語専攻の学生らから6月に募金活動を実施。
8	6/22	大阪国際大学	大阪	高齢化が進む門真団地(大阪府門真市)で、経営経済学部の学生が買い物のサポートや独居世帯への戸別訪問などに取り組む。産官学連携の「体験型の学び」の一環。
9	6/24	甲南女子大学	兵庫	メディア表現学科の卒業制作映像作品「コットンダイアリー」が神戸・元町映画館で劇場公開。
10	7/13	関西大学	大阪	関西電力とカーボンニュートラル社会の実現に向けた包括連携協定を締結。同社の大学との事例は初で、共同研究や人材育成、キャンパス・カーボンニュートラル化などを推進。
11	7/5	大阪経済大学	大阪	2023年4月、全学部の入学定員の合計を1645人から1860人に増加。
12	6/30	東京大学	東京	都心サテライト拠点「東京大学八重洲アカデミックコモンズ」を、東京ミッドタウン八重洲4階に10月開設。社会人をはじめ幅広い層を対象に多彩なプログラムを提供。
13	7/19	東京都市大学	東京	23年4月、横浜キャンパスにデザイン・データ科学部を開設。データサイエンスを生かした分析力と創造力を磨き、4カ月間のオーストラリア留学でグローバルに活躍できるインバースタudent人材を育成。
14	6/23	流通経済大学	茨城	経済学部八木良太教授ゼミが執筆した『スポーツ起業で、社会を動かす』がmasterpeace社から出版。
15	6/27	神奈川大学	神奈川	23年4月、化学生命学部と情報学部の開設で理工系学部は5学部体制に。理学部の横浜キャンパス移転で全学部が横浜エリアに集結。公式YouTubeチャンネルでは理工系学部PR動画も公開中。
16	7/8	武蔵野大学	東京	23年4月、工学部に日本初の「サステナビリティ学科」を有明キャンパスに開設。
17	7/4	淑徳大学	千葉	23年4月、地域創生学部と人文学部人間科学科を新設。経営学部は東京キャンパスに転校。
18	6/28	湘南工科大学	神奈川	23年4月、情報学部情報学科を開設。工系系単科大学から2学部5学科の新体制に。
19	6/27	成城大学	東京	キャリアセンターの「就業力育成・認定プログラム」がデザイン思考のワークショップを5～6月に実施。
20	7/5	大阪国際大学	大阪	地元の老舗和菓子店と地域の酒販店を経営経済学部3年のゼミ生らが結び付けて企画した商品「不思議な溶けないアイスキャンディー」を夏季限定で販売。地元の新名物となるよう、プロモーション企画も検討。
21	7/13	実践女子大学	東京	高校や予備校に通う女子生徒を対象に、12月26日まで日野・渋谷両キャンパス図書館を無料開放。
22	6/29	北里大学	神奈川	ツメガエルの性決定遺伝子dm-Wが、dmr1遺伝子と利己的DNA(トランスポゾン)とのキメラ遺伝子(融合遺伝子)であることを、大学院理学研究科の研究グループが発見。
23	7/15	関西大学	大阪	大学昇格100年を記念し、「関西大学フェスティバル in 関西」を10月9日に開催。多数の著名人も来校。
24	7/12	東京都市大学	東京	9月11日に「第20回 大学で楽しもう！小学生・中学生のための科学体験教室」を3年ぶりに対面で開催。
25	7/12	弘前大学	青森	ホヤのおたまジャクシ幼生の中に、20秒おきには振り運動を自動的に発動させる「タイマー」が内蔵されていることを大学院農学生命科学研究科、理工学研究科の研究グループが発見。
26	7/14	武蔵大学	東京	高校生、大学受験生を対象に9月2日まで大学図書館を開放。入試コーナーでは過去問題集などの閲覧も。
27	7/4	大阪国際大学	大阪	インターンシップに臨む3年生を対象に、経営経済学部が実務家教員によるトークセッションを開催。
28	6/21	追手門学院大学	大阪	朝日新聞近畿エリア版で、アイドルグループNMB48、投資マンガ『インベスターZ』(作・三田紀房氏)とコラボ中の経営学部・宮宇地俊彦准教授が同大ニュースサイト「OTEMON VIEW」に登場。
29	6/28	大阪大学	大阪	新型コロナウイルス感染症が組織ダメージや代謝異常をきたす理由として、組織修復や代謝制御に重要なインスリン/IGFシグナリングが障害されるためである可能性を大学院医学系研究科の研究グループが示唆。
30	6/27	立命館大学	京都	プロ野球楽天イーグルスの本拠地で7月に「立命館大学デー」を開催。スポーツビジネスを学ぶ機会に。

※タイトルは一部編集しています。詳細は「大学プレスセンター」のホームページ (<https://www.u-presscenter.jp/>) をご覧ください。

世界、地域、自己を見つめ 学生らの思いこもる活動

地球上では100年に1度のパンデミック(世界的大流行)が人類を脅かし、軍事侵攻も勃発した。不安定な社会情勢の中、国内の高齢化も深刻さを増している。今回のアクセスランキング(左ページ)では、大学での学びを通して、そうした問題について議論を深め、解決の手だてや支援、作品表現を



高齢化が進む門真団地での移動販売の様子 (写真提供：大阪国際大)

行う学生らの活動を紹介します。「体験型の学び」の一環として地域の課題解決に取り組む大阪国際大(大阪府守口市)経営経済学部経済学科地域みらいづくりコース3年生の22人は、門真団地(門真市)で住民とウェルビーイング(心身の幸福)向上に取り組む活動を始めた(8位)。

同団地は建設から50年が過ぎ、高齢化率が65%を超える「都会の限界集落」。独居老人の孤独死や買い物難民などの問題も生じており、現在は建て替えと土地の再開発が進められている。

こうした中、経営経済学部では2019年度から門真市および団地自治会と連携し、課題解決を目的としたプロジェクト型学修を開始。市から借りた団地の空き室を

「門真団地みらいづくり研究所」と名付けて拠点とし、独居世帯への戸別訪問や、敷地内に菜園をつくり野菜づくりの手伝いを行うなど、多彩な活動を進めてきた。

このうち、産官学連携で取り組んでいるのが「買い物サポート」だ。スーパーマーケット「フレスト」を運営する京阪グループの京阪ザ・ストアは、市との連携により団地内で移動販売を行っているが、エレベーターが設置されていない棟もあり、米などの重い商品は販売されていなかった。

そこで、学生らの発案により、サポート活動をする日には重い商品の持ち運びも行うことに決定。併せて、生活での困り事などのヒアリングも行うこととなった。

昨年6月に閣議決定された「骨太方針2021」では、医師が患者の社会生活面での課題にも目を向け、地域と連携する「社会的処方」の活用が明記された。同学科の早川公准教授(文化人類学)は、「社会的処方」で大切なのは、医療や福祉の専門職と地域での活動をつなげる力。門真団地での学びを

通じて、社会課題にさまざまな人や組織と協働して取り組む力を学生から引き出したい」と説明する。

京都産業大(京都市)でロシア語を専攻する学生らは、人道危機に直面しているウクライナへの継続的な支援の実現に向けて募金活動を実施した(7位)。

今年2月に勃発したロシア軍による侵攻により、ウクライナでは病院や給水施設、学校などが次々と破壊され、深刻な人道危機に直面している。外国語学部ヨーロッパ言語学科ロシア語専攻で学ぶ学生たちは、いま必要とされる人道支援が何かを話し合い、中長期的な視点から、同国の子どもたちへの支援に向けた募金活動を実施。

6月6～10日の5日間、キャンパス内で学生ら延べ100人で行い、23万円を超える額の寄付金が集まった。寄付金は日本赤十字社を介し、ウクライナおよび周辺国での救援活動への支援に用いられる。

自分自身が「よき人でありたい」という思いから募金活動に携わったという学生の一人は、「こうした活動を『偽善』とみなす人もい

る。それでも、少しでも助かる人、助ける人がいるのならいいのではないか」と語る。

甲南女子大(神戸市)文学部メディア表現学科の学生が卒業制作として作った映画「コットンダイアリー」が7月、神戸・元町映画館で劇場公開された(9位)。

誰かの暮らしに触れることで新しい価値観と出会える。そんな気がする――。本作品は「コットン」こと尾松琴音監督がコロナ禍で自分の暮らしを見つめ直し、周りにいる素敵な人たちの暮らしを訪ねた、日記のようなセルフドキュメンタリーだ。作中のイラストやオリジナル曲の作詞、ボーカルも尾松監督が務めた。

指導にあたった映画監督で同学科の池谷薫教授は「学生の映画づくりは、究極の自分探し。とくに就職活動と並行して行う卒業制作は学生の成長がそのまま記録されていく」と話す。

学生らの活動にこめられた思いが確かなカタチとなって、未来への希望を紡いでゆく。

大学通信・玉木栄一、上道敬子